

2021.9.13

# Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動



猛暑が一転して冷たい雨が続き、それが明けたら林はもう秋

草原の変化が語る季節の移り変わり  
←5/17の赤塚城址 一面のシロツメクサ  
9/13の赤塚城址 一面の夏草↓



今年のお彼岸の日＝秋分は9/23ですが、その日を基準にして開花するヒガンバナ。今年は10日ほど早く開花しました。

ヒガンバナは日中の明るい時間と夜の暗い時間が同じになる時期に花を開かせるという体内時計を持っているので、ちょうど秋分の時期に開花するのですが、猛暑に続いて雨の日が多く、日中も雲

が垂れ込めた暗い日が続いたためでしょう、「もうお彼岸だ」と思い込んで咲き始めました。

このように野草の開花時期が早くなったり遅くなったり、開花期間が延びたりという事象は、ヒガンバナばかりでなく、最近いろいろな野草で起こっています。気候変動は、わたしたちの暮らしの中で、もう珍しいことではない日常になってきているわけです。

写真ではわかりにくいのですが、右下の1枚はイヌタデとハナタデの揃い咲き。花穂が密集しているのがイヌタデで、密集しないで色も薄いのがハナタデです。通常、ハナタデはイヌタデより一步遅く秋が深まったころに開花するのですが、ここでは同時開花していました。



## 昔からそこにあったのに初めて観察できた実



←「これは何だろう?」と昔からわからないままだったのが、2、3年前に熱心な観察者がサワフタギであると同定。種名が分かると観察の眼もよく注がれるようになるのでしょうか、翌年には開花を初観察。そして今年、9/13にはきれいな紫色の実を結んでいるのを初観察。

**去年までは観察されなかった、つまり無かったのに、今年になってあちこちに出現している花**

今年は4月にナヨクサフジという野草が赤塚公園内の離れた2か所に突然出現しました。9月に入ってからの観察ではヤブツルアズキという草→が登場しました。種鞘もつけています。小豆にそっくりだそうです。城址のバッタ広場と大門の生物多様性保全エリアで出現。2か所とも余計な草刈りを行わないという共通点はあるもの、距離が離れた違う場所に同時出現とは、観察者一同首をかしげるばかり。



観察活動を始めて今年で6年目。まだまだ「初お目見え」の植物が出てくるのです。  
不思議! それが赤塚公園です。その自然を見守り、大切にしていきたいものです。

**チョウ3種 2021.08.16 付けレポートの間違い指摘あり、修正しました 左からクロアゲハ(雌)、ゴマダラチョウ、キタキチョウ。**まだ間違えていたら教えて。



植物観察・記録活動（モニタリング） 9、10月は、9/20、10/4、10/11、10/18  
どなたも参加できます。お問い合わせは都立赤塚公園サービスセンターへ  
**03-3938-5715**